

令和 6 年 6 月 21 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H04428

研究課題名（和文）公共図書館の多様な活動を評価する統合的指標の開発

研究課題名（英文）Development of an Integrated Indicator for Evaluating Various Activities in Public Libraries

研究代表者

原田 隆史（Harada, Takashi）

同志社大学・免許資格課程センター・教授

研究者番号：30218648

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,440,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は「資料」、「来館者」、「非来館者」、「知の拠点」、「図書館制度・経営」という5つの観点から、日本の公共図書館全体を対象とする大規模な質的・量的調査を実施することで、日本の公共図書館の現状を明らかにし、各館の置かれた状況に応じたベースラインを算出することを目的とするものである。

各観点についてデータの収集・分析を実施し、多様なサービス評価のベースライン確立に寄与すると共に、それらのサービス評価に必要なデータ・情報を特定することによって図書館から統合的にデータ提供を受けることが可能な体制構築に寄与した。さらにBIツールによる分析体制を確立中であり、所与の目的の達成が想定されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では公共図書館がおこなっている多様なサービスについて、量的・質的含めたデータの取得・分析により多様性を尊重した形で統合的に評価する体制の道筋を開くことができた。図書館サービスを評価するためのベースラインを定めるものであり、各図書館の全体像を把握し、強み・弱みを明らかにすることができる、一連の評価パッケージ構築に寄与する成果が得られた。

研究成果の概要（英文）：The objective of this research project was to conduct a large-scale qualitative and quantitative study targeting the entire public library system in Japan. This study focused on five key perspectives: "Materials," "Visitors," "Non-visitors," "Knowledge Hub," and "Library System and Management." Through comprehensive data collection and analysis, the project aimed to elucidate the current state of public libraries in Japan and establish baseline metrics tailored to the circumstances of each library.

Data was collected and analyzed across all perspectives, contributing to the establishment of baselines for evaluating diverse services. Additionally, by identifying the necessary data and information for these service evaluations, the project facilitated the development of a system enabling the integrated provision of data from libraries. Furthermore, the project is in the process of establishing an analysis system using BI tools, which is expected to achieve the given objectives.

研究分野：図書館情報学

キーワード：公共図書館 図書館評価

## 1. 研究開始当初の背景

公共図書館を取り巻く環境は大きく変化している。検索エンジンにより図書館の書誌情報検索機能の優位性は低下し、定額制電子書籍読み放題は図書館の資料提供機能と競合する。さらに少子高齢化、格差拡大、社会的資源の配分に関する合理性・公平性の重視など社会状況の変化を受け、図書館に対する社会の目も変化してきた。それを受けて貸出サービス偏重の図書館のあり方が疑問視されると同時に、運営効率化への圧力は高まる一方である。

これらの変化に対応し、図書館でも新たなサービスが模索されている。ビジネス（地場産業）支援や行政支援、学校・子育て支援などは多くの公共図書館が既に開始している。事業仕分け判定を受けた京都府立図書館の中期計画では、知的な文化交流の場の創設、デジタルアーカイブの展開、非来館型サービスの充実なども盛り込まれている。しかし新たなサービスの必要性は認知しつつも、実施に踏み切れない図書館も少なくない。その障壁の一つは、自館の環境でのニーズがあるか、コストとのバランスがとれるかに確信を持ってないことがある。

一方で運営効率化への圧力の高まりは、既にサービスを実施している図書館においても、それらのサービスを如何に評価するかという疑問を生んでいる。図書館評価については法制度の面からも必要性が指摘されるようになっており、2008年に改正された図書館法では第7条の3項および4項として「図書館は、図書館の運営状況について評価を行い、その結果に基づき、運営の改善のための必要な措置を講じ、運営状況に関する情報を地域住民等へ積極的に提供するように努めなければならない」と規定される。しかし、1960年代に図書館活動の活性化を示す指標として「貸出冊数」と「入館者数」が設定されて以降、日本の図書館界では両者以外の図書館評価に関する指標の研究は数少ない。図書館サービス評価の指標として国際的には図書館パフォーマンス指標（ISO11620、ISO/TR20983）も作成されているが、利用に関わる数値指標が中心であり新たに生まれた多様なサービスは評価の対象とはなっていない。また、図書館パフォーマンス指標には日本からの情報は提供されておらず、かつ国内での利用もほとんど行われていない。日本では統一された基準の下で自身の相対的な位置を確認し、強み・弱みを把握したり、次の戦略を練ったりすることができる状況にないといえる。

## 2. 研究の目的

1であげた背景を受け、本研究では、従来から行われていた貸出をはじめとするサービスと、新たに提供されるようになったサービス、さらに図書館の運営面も含めた、図書館評価の観点として「資料」、「来館者」、「非来館者」、「知の拠点機能」、「図書館制度・経営」の5つの観点を設定する。これら5つの観点について、日本の公共図書館全体を対象とする大規模な質的・量的調査を実施することで、それぞれの機能・サービスの基準となるベースラインを明らかにしたい、というのが本研究課題の核心的な目的である。この目的を達成することにより、日本の公共図書館すべてに適用可能な評価パッケージが開発可能になると考えられる。さらに、これにより全国の図書館が統一的な基準の下で自館の位置づけを確認し、自身の強み・弱みや自館の置かれた環境も把握した上で、それに応じた最適な行動指針を策定できるようになる。本研究により全国の公共図書館評価を改革し、我が国の知識基盤の改善・見直しに資することが期待される。

## 3. 研究の方法

### (1) 資料

#### 個別貸出データ分析

複数の図書館の協力の下で、年間の貸出回数等の集計済みの形にまとめる前の図書館の貸出データの提供を受け、分析する。提供形式は完全な貸出ログ（資料の実際の貸出記録、利用者名等の個人が特定できる情報は削除するが、一部の図書館からは利用者ID・年代等の最低限の属性データを含めた状態でも提供を受ける）と、日毎等の単位にまとめた貸出回数とするなど、図書館によって異なる。これらのデータを用い、天候・季節・曜日・イベント開催有無等と資料の貸出回数の関係を明らかにする。これによって、各図書館についてその日の条件下における想定される貸出回数を算出することができ、それに対する実際の貸出回数との比較から、新規に開始したサービス等の成果を可視化することができるようになると考えられる。さらに貸出回数において開発した手法は、レファレンス受付数等の他の数値化可能なサービスにも援用可能となる。

#### 自治体横断的分析

『日本の図書館 統計と名簿』のデータと国勢調査等、自治体に関する多様な観点のデータを用いることで、各自治体を粒度とし、サービス利用回数（貸出回数等）を目的変数、当該自治体の状況（人口密度や産業構造等）を独立変数とする、サービス利用回数予測関数モデルを構築する。全国的なモデルを構築することにより、特定の自治体についてモデルから算出される利用回数予測（ベースライン）と、実際の利用回数との差から、当該自治体図書館における取り組みの評価に役立てることが可能となる。まずは対象サービスを資料の貸出とするが、手法構築後は他

のサービスにも援用可能となる見込みである。

## (2) 来館者

### 個別来館データ分析

資料班の協力のもと、一部の図書館から来館者数データの提供を受け、個別貸出データ分析と同様の分析を来館者数に対しても実施する。

### WEB モニタ調査データ利用分析

国立国会図書館が実施する「図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査」について、2019・2020 年度調査について助言をおこなったうえで、各調査で得られたデータを用い、図書館への来館・非来館に係る要因の分析や、来館者・非来館者の類型化を実施する。同調査は WEB モニタ 5,000 人を対象に、情報行動や属性データの詳細と、図書館利用・非利用行動やその理由について尋ねるものであり、その分析によって来館者に限定されない、潜在的な利用者も含む来館・非来館要因や期待されるサービスの傾向を明らかにすることが可能となる。具体的な分析手法としては来館者・非来館者それぞれのクラスター分析による類型化と導出された類型における特徴的な行動の特定、図書館利用に係る要因の共分散構造分析等である。

### 独自 WEB モニタ調査分析

利用者属性の中でも公共図書館利用が最も少ない年代として、10 代後半～20 代（大学生～新社会人）がある。大学生が公共図書館を使わないのは大学図書館利用が主であるためと考えられるが、2-2 のクラスター分析、後述のライフヒストリー分析等で、大学生による公共図書館利用に一定のパターンが存在する可能性も示された。そこで特に大学生を対象に、独自に WEB モニタ調査を実施し、大学生における大学図書館・公共図書館の使い分けと公共図書館の来館パターンを明らかにすることを試みる。

## (3) 非来館者

### 電子書籍サービス導入館分析

来館者調査等と重複しない独自分析として、非来館型サービス、とりわけ電子書籍サービスの導入館を対象とする調査を実施する。調査手法は図書館に対する訪問・ヒアリング調査である。

### 図書館ライフヒストリー分析

一部、来館者分析とも重複するが、図書館をかつて使っていたが現在は使っていない利用者等の理由や潜在的ニーズを明らかにすることを目的に、図書館とのかかわりに関するライフヒストリー調査を実施する。手法は長文自由記述形式で図書館についての自身の「思い出」を尋ねる調査と、図書館に子どもを連れて行った経験を持つ保護者と連れて行かれた子ども、それぞれの、その前後も含む図書館利用・非利用経験に関するインタビュー調査である。

## (4) 知の拠点機能

### 図書館展示調査

知の拠点機能のうち図書館における展示に特に着目し、図書館が実施する展示についてのデータを WEB から収集した上で、実施されている展示の分類や、実際に展示されていた資料に関するデータの抽出・類型化を試みる。

## (5) 図書館制度・経営

### 関連文献調査

図書館評価に関する制度等の国際的な文献調査を実施する。

### BI ツール利用体制開発

多くの図書館業務を手掛ける受託企業と協力のもとで、データの一元的な提供を受けた後、当該データを BI ツールを用いて簡易に分析できる体制の構築を試みる。

## 4. 研究成果

本成果報告書作成時点までに外部発表等の形で成果を公開済みであるものについて、以下に報告する。全体的な結果は図書館・制度経営班に集約し、BI ツール等を用いた多面的サービス評価ツールの構築という形で今後、統合していく予定である。

### (1) 日毎の貸出数・来館者の推移と影響要因

東京都江東区、愛知県田原市、千葉県柏市、大阪府から貸出データの提供を受け、日毎の貸出回数と天候等の影響関係を分析した。また、大阪府からは来館者数についても同様の分析を実施した。分析は日毎の貸出あるいは来館数を目的変数、天候や曜日等を独立変数とする重回帰分析モデルの構築により実現した。分析の結果、いずれの図書館でも曜日の影響が最も大きいこと、しかし曜日の影響は利用者の年代によっても異なること（柏市の分析より、定年退職後と考えられる高齢者は曜日が影響しなくなる）が示された。また、江東区、柏市、大阪府では天候が有意

に利用に影響するが、田原市では有意な寄与が見られず、その原因としては利用者の来館方法（公共交通と徒歩か、自家用車か）が考えられる。さらに大阪府の分析からは長期休み、中でも夏休みの来館等への影響が大きいこと、イベント実施もわずかながら利用に正の寄与を持つこと等が示された。図書館単位での、日ごとの利用予測はかなりの精度で実現可能であることも確かめられ、この予測数値を持って評価のベースラインとすることも現実的である。

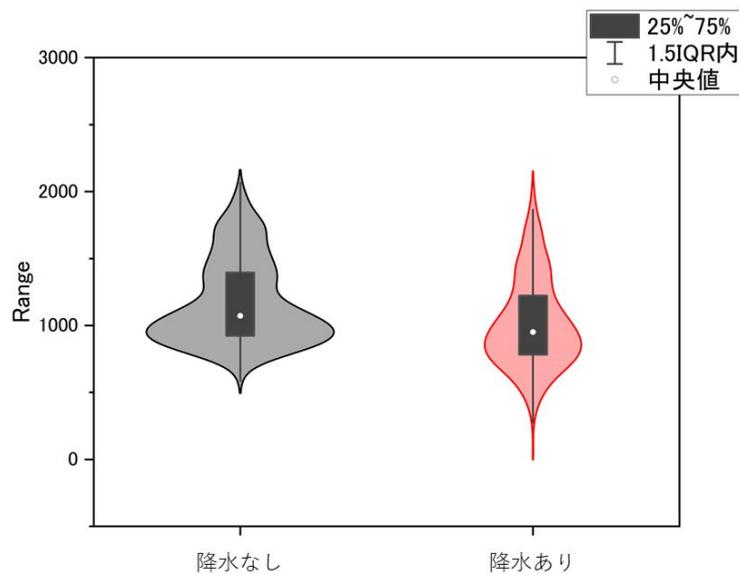


図1. 貸出回数と降水の有無のバイオリン・プロット（柏市）

#### (2) 公共図書館における貸出関数の構築

『日本の図書館 統計と名簿』のデータを用い、全国の自治体について、自治体等の属性から各図書館の年間貸出回数を予測する重回帰分析モデル(「貸出関数」)の構築を試みた。先行研究から、首都圏に限った場合には高精度での予測が可能であることが示されていたが、これは本研究においても再現された。しかし対象を全国に広げた場合はもちろんのこと、首都圏以外は地域を区切っても高精度での予測モデルが成立するとは限らず、さらに予測の可否に影響する要因が必ずしも定かではない(首都圏以外では四国や東北で比較的、精度の高い予測ができるが、中国や北海道ではできない)ことが判明した。貸出関数から自治体横断的なベースラインを構築することはいったん、頓挫した状態であるが、なぜ地域によってモデルが成立するケースとしないケースがあるかを明らかにするという、ベースライン構築のための課題を特定することができた。

#### (3) 来館者・非来館者クラスター分析

国立国会図書館による WEB モニタ調査のデータを用い、図書館の利用者・非利用者それぞれの、図書館への印象などに基づくクラスター分析を実施し、利用者・非利用者それぞれに6類型が存在することを明らかにした。

特に利用者について、2014年の国立国会図書館データでは存在が確認されていなかった、場所として(学習等のための空間として)図書館を利用しており、起業等のいわゆるビジネス支援サービスに対して強いニーズを持つ、若年世代という新たなクラスターの存在が確認された。こうしたクラスターのニーズに応えるサービスの特定が、来館者向けサービス評価の一助となると考えられる。

一方で非来館者の中では「かつては図書館を利用していた」図書館に好意的なグループが確認されたものの、そのクラスターが今は図書館を使いたいと思っていない、という現実も判明した。その主な要因は新型コロナウイルス感染症であると目され、こうした旧利用者向けに非来館者サービスをより充実させる必要性も確かめられた。そのニーズの特定により、非来館者サービスの評価も充実できるものと考えられる。

#### (4) 電子書籍サービス導入館ヒアリング調査

電子書籍サービス導入館に対するヒアリング調査を実施し、結果を単行書『次世代に向けた電子図書館の可能性』としてまとめた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計35件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 佐藤 翔	4. 巻 74
2. 論文標題 公共図書館の日毎の貸出冊数予測モデル：柏市立図書館を対象とする分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 216～233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20628/toshokankai.74.4_216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島幸宏	4. 巻 74
2. 論文標題 《討議》図書館における電子媒体資料の活用について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 336～349
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20628/toshokankai.74.6_336	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島幸宏	4. 巻 1026
2. 論文標題 アーカイブズを巡る現状と課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 16～25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅俊彦	4. 巻 15
2. 論文標題 公共図書館における非来館型サービスとしての電子図書館 札幌市、神戸市、明石市の事例を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 追手門学院大学国際教養学部紀要	6. 最初と最後の頁 51～70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 湯浅俊彦	4. 巻 308
2. 論文標題 図書館DXとしての電子送信	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 専門図書館	6. 最初と最後の頁 8~14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 徳安 由希、小泉 公乃	4. 巻 68
2. 論文標題 公共図書館における行政支援サービスの構築と発展：田原市図書館の事例分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本図書館情報学会誌	6. 最初と最後の頁 95~111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20651/jslis.68.2_95	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koizumi Masanori、Larsen Hakon	4. 巻 55
2. 論文標題 Democratic librarianship in the Nordic model	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Librarianship and Information Science	6. 最初と最後の頁 208~217
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09610006211069673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Igarashi Tomoya、Koizumi Masanori、Widdersheim Michael Majewski	4. 巻 79
2. 論文標題 Overcoming social divisions with the public library	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Documentation	6. 最初と最後の頁 52~65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JD-12-2021-0244	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawamoto Marika, Koizumi Masanori	4. 巻 79
2. 論文標題 Library as place: conceptual model for public libraries and their transition	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Documentation	6. 最初と最後の頁 376 ~ 397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JD-02-2022-0046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Igarashi Tomoya, Watanabe Momoka, Tomita Yumi, Sugeno Yuki, Yamagishi Motoko, Koizumi Masanori	4. 巻 -
2. 論文標題 Public library events with spaces and collections: Case analysis of the Helsinki Central Library Oodi	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Librarianship and Information Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/09610006221097405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Sho, Ichihashi Hinata, Okano Mai, Kawachi Miina, Kamijima Yuri, Harada Takashi	4. 巻 86
2. 論文標題 A Re-examination of the Availability of the Function Predicting Book Circulation in Public Libraries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Library and Information Science	6. 最初と最後の頁 19 ~ 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.46895/lis.86.19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Sho, Harada Takashi, Tatebe Kanako, Izumi Yui, Suemichi Ayano, Inaba Momoka, Igarashi Tomoya, Masanori	4. 巻 31
2. 論文標題 Effect of weather and days of the week on number of daily circulation in public libraries	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Library and Information Science Research E-Journal	6. 最初と最後の頁 56 ~ 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32655/libres.2021.1.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 湯浅俊彦	4. 巻 15
2. 論文標題 公共図書館における非来館型サービスとしての電子図書館 札幌市、神戸市、明石市の事例を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 追手門学院大学国際教養学部紀要	6. 最初と最後の頁 51～70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岸田和明	4. 巻 59
2. 論文標題 館外貸出に基づくマクロ指標による日本の公立図書館の状況把握	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代の図書館	6. 最初と最後の頁 156～161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉岡秀紀	4. 巻 73
2. 論文標題 《書評》田辺智子 著『図書館評価の有効性：評価影響の理論を用いた実証研究』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 477～478
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20628/toshokankai.73.5_477	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島幸宏	4. 巻 11
2. 論文標題 文化財写真の突破口：デジタルアーカイブの視点から (特集 文化財の活用と発信・保存と記録)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 文化財写真研究	6. 最初と最後の頁 28～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島幸宏	4. 巻 46
2. 論文標題 地域の博物館や図書館などは「地方(じかた)写真」の拠点たりえるか? (特集 デジタル写真データベースが拓く学術活動の未来)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告	6. 最初と最後の頁 163 ~ 181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島 幸宏	4. 巻 5
2. 論文標題 歴史資料のデジタル化 いくつかの事例をもとに	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 95 ~ 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.5.2_95	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 諭、福島 幸宏、宮本 隆史	4. 巻 5
2. 論文標題 [51] デジタル時代の研究者アーカイブとその系譜	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 s82 ~ s85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.5.s1_s82	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福島 幸宏	4. 巻 67
2. 論文標題 『戦国の図書館』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本図書館情報学会誌	6. 最初と最後の頁 118 ~ 119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20651/jslis.67.2_118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柳 与志夫ほか	4. 巻 5
2. 論文標題 「デジタルアーカイブ」に至る道 月尾嘉男先生インタビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 246～251
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24506/jsda.5.4_246	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Sho, Eto Yukari, Iwaki Kotomi, Oyanagi Tadashi, Yasuma Yu	4. 巻 41
2. 論文標題 Impact of bookshelf locations using eye-tracking methodology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Library Management	6. 最初と最後の頁 617～629
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/lm-04-2020-0063	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 翔、伊藤 弘道	4. 巻 66
2. 論文標題 図書の書架上の位置が利用者の注視時間に与える影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本図書館情報学会誌	6. 最初と最後の頁 55～68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20651/jslis.66.2_55	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤 翔、建部 奏子、泉 柚衣、末道 礼乃、稲葉 百花、原田 隆史	4. 巻 72
2. 論文標題 公共図書館の日毎の来館者数・貸出冊数を予測するモデルの構築	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 266～279
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20628/toshokankai.72.6_266	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉岡秀紀	4. 巻 26
2. 論文標題 書評 『公立図書館と都市経営の現在 - 地域社会の絆・醸成へのチャレンジ (都市経営研究叢書第4巻)』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本地域政策研究	6. 最初と最後の頁 128 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤聡子 , 佐藤翔	4. 巻 29
2. 論文標題 公立図書館への指定管理者制度導入時・導入後の運営に地方公共団体関係者の認識が与える影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同志社図書館情報学	6. 最初と最後の頁 61-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2019.0000000476	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sato Sho, Harada Takashi, Itagaki Saki, Suehiro Asuka, Takamura Tomoka, Yamashita Koji, Ichikawa Ryuta, Sukoboshi Katsuhiko	4. 巻 56
2. 論文標題 Library shelf signs affect users' search time length: Evidence from an experiment using a VR library system	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the Association for Information Science and Technology	6. 最初と最後の頁 752 ~ 754
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/pr2.161	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本順一	4. 巻 115
2. 論文標題 アリゾナ州コーチーズ・カウンティ図書館行政区の One County One Cardシステムについての考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 図書館学	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sho Sato , Takashi Harada , Tomoya Igarashi , Masanori Koizumi , Kanako Tatebe , Yui Izumi , Ayano Suemichi , Momoka Inaba	4. 巻 -
2. 論文標題 The Effect of Weather and the Days of the Week on the Number of Daily Circulations in Public Libraries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 9th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice(A-LIEP 2019)	6. 最初と最後の頁 390-396
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤翔	4. 巻 372
2. 論文標題 大学図書館の成果を測る : Project Outcome大学図書館版	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カレントアウェアネス-E	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本順一	4. 巻 61(4)
2. 論文標題 この国の公共図書館とそのレファレンスサービスのゆがみ : 現場からの照会に応えるとともに、これまで感じていたこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 桃山学院大学経済経営論集	6. 最初と最後の頁 75-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西浦 ミナ子、佐藤 翔、石川 楓佳、土肥 愛果、福島 奏、原田 隆史	4. 巻 33
2. 論文標題 大学図書館の学習支援サービスのための情報源としてのシラバス : シラバス調査と学部生の認識を通じた考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社図書館情報学	6. 最初と最後の頁 90 ~ 113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/0002000200	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 HARADA Takashi、IKEMOTO Hikaru、IMAI Kimimasa、FUKUZOE Atsuhiko、MIYAZAWA Tomomi、SATO Sho	4. 巻 33
2. 論文標題 ChatGPTを用いた小説推薦の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Joho Chishiki Gakkaishi	6. 最初と最後の頁 427 ~ 432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2964/jsik_2023_044	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西浦 ミナ子、佐藤 翔、原田 隆史、逸村 裕	4. 巻 75
2. 論文標題 大学図書館の利用教育に対する学部生の認識	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 17 ~ 33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20628/toshokankai.75.1_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西浦 ミナ子、佐藤 翔、原田 隆史、逸村 裕	4. 巻 75
2. 論文標題 大学図書館の学習支援に対する教員の認識と図書館員との連携	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 図書館界	6. 最初と最後の頁 2 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20628/toshokankai.75.1_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 岸田和明, 門脇夏紀
2. 発表標題 地域メッシュ統計を活用した公共図書館評価の試み: 神奈川県を事例として
3. 学会等名 日本図書館情報学会春季研究集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤翔
2. 発表標題 公共図書館における貸出関数の検証：予測値と実測値の比較分析
3. 学会等名 日本図書館情報学会第70回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐藤翔
2. 発表標題 Every person / Every bookに 図書館は寄与できているのか -利用研究から見る第二・第三法則の現状-
3. 学会等名 日本図書館研究会第64回研究大会 シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 福島幸宏
2. 発表標題 デジタルアーカイブの全容把握の試み：近年の日本の博物館を対象に
3. 学会等名 三田図書館・情報学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sho Sato , Saki Itagaki , Asuka Suehiro , Tomoka Takamura , Koji Yamashita , Ryuta Ichikawa , Katsuhiko Sukoboshi , Takashi Harada
2. 発表標題 Development of VR system for testing library designs
3. 学会等名 IFLA 85th World Library and Information Congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 原田隆史, 福島幸宏, 逸村裕
2. 発表標題 データでみる図書館【第2弾】
3. 学会等名 第21回図書館総合展(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 湯浅俊彦	4. 発行年 2024年
2. 出版社 出版メディアパル	5. 総ページ数 223
3. 書名 次世代に向けた電子図書館の可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	高久 雅生  (Takaku Masao)  (00399271)	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授   (12102)	
研究分担者	小野 永貴  (Ono Haruki)  (10592868)	筑波大学・図書館情報メディア系・助教   (12102)	
研究分担者	杉岡 秀紀  (Sugioka Hidenori)  (10631442)	福知山公立大学・地域経営学部・准教授   (24304)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	福島 幸宏  (Fukushima Yukihiro)  (40531182)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授    (32612)	
研究分担者	真山 達志  (Mayama Tatsushi)  (50199915)	同志社大学・政策学部・教授    (34310)	
研究分担者	嶋田 学  (Shimada Manabu)  (50847754)	京都橘大学・文学部・教授    (34309)	
研究分担者	江草 由佳  (Egusa Yuka)  (60413902)	国立教育政策研究所・研究企画開発部教育研究情報推進室・ 総括研究官    (62601)	
研究分担者	湯浅 俊彦  (Yuasa Toshihiko)  (70527788)	追手門学院大学・国際教養学部・教授    (34415)	
研究分担者	小泉 公乃  (Koizumi Masanori)  (70567461)	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授    (12102)	
研究分担者	安形 輝  (Agata Teru)  (80306505)	亜細亜大学・国際関係学部・教授    (32602)	
研究分担者	桂 まに子  (Katsura Maniko)  (80457902)	京都女子大学・文学部・講師    (34305)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岸田 和明 (Kishida Kazuaki) (90234210)	慶應義塾大学・文学部（三田）・教授  (32612)	
研究分担者	佐藤 翔 (Sato Sho) (90707168)	同志社大学・免許資格課程センター・准教授  (34310)	
研究分担者	逸村 裕 (Itsumura Hioroshi) (50232418)	筑波大学・図書館情報メディア系・教授  (12102)	
研究分担者	福井 雄大 (Fukui Yudai) (90915729)	滋賀文教短期大学・国文学科・助教  (44203)	
研究分担者	岡部 晋典 (Okabe Yukinori) (60584555)	愛知淑徳大学・人間情報学部・講師  (33921)	
研究分担者	山本 順一 (Yamamoto Junichi) (80210532)	桃山学院大学・経営学部・教授  (34426)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関